

日中不再戦
日中友好

日本中国友好協会



苦小牧支部ニュース

発行所
日本中国友好協会
苦小牧支部
苦小牧市有珠の沢町
7-6-19伊藤方
☎0144(72)5348

2016年9月5日

No.42



みんなで戦争と平和について考えてみました



全員で憲法前文を朗読

戦場という狂気の中では、普段は善良な人でも鬼に化す
8月10日（水）に苦小牧市市民活動センター（新日本婦人の会苦小牧支部）に協賛団体として日本友好協会苦小牧支部が初参加しました。

開催にあたっての支部担当として開催ポスターの作製と駅・公民館等でそれらの掲示、参加者全員での憲法前文群読のための全文を記した大きな掲示物（2.5 m × 3 m）作成のほか、



V-D「証言—侵略戦争」（日本友好協会制作）の上映や、さらに来訪者との交流会「平和おしゃべりカフェ」に参加しました。



証言を聞く参加者のみなさん

2016/08/10 11:24

池野さんの戦争体験トーキングに当たって、支部では事前に6ページの資料を準備作成し、参加者に配布しました。池野さんは、1945年8月、中国遼寧省敦化市で起きた集団自決（青酸カリを飲ませられた）に巻き込まれ、奇跡的に生き延びたこと、帰国までの間に発疹チフスに感染し病床に伏したため、成人になつても体に残った数ヵ所のひどい床ずれに苦しんだこと、深い大きなトイレで宙ぶらりんになつたこと、また引揚時に栄養失調状態に加えて、足に障害が発生したが、現地に残される恐怖から「リハビリ」に励み必死に歩きとおりしたこと、橋が破壊された川での渡渉時のことなど、何度も死と背中合わせの体験を、時には体を震わせな



自らの戦争体験を話す池野さん

ながらお話しされました。戦争が引き起こす、平時では考えられない悲劇が身の回りで起きること、それが戦争の実相であること、そして、平和の大切さ、戦争は決して起こしてはならないことを強く訴えられました。



また、池野さんは、聞いたてくれた人たちに、得意の手芸で自作の皮製のストラップをたくさん作ってきてくれて配布してくれました。（「きっとこの作品を見ると、今回の「平和のつどい」で聞いたお話を思い出してくれる」ということでしょう。聞いた人たちに多くの共感を与える真摯な表現ですばらしかった。池野さんありがとうございました、「河野談」でお疲れ様でした）

（平和のための戦争展）で、戦争では戦争の実相を伝えるパネル写真のほか、新聞記事、葛保さんが以前から収集している資料を展示了。



戦争の絵本や写真集

満州国の旗など侵略を伝えるレプリカの展示



日本の侵略戦争の歴史年表と侵略戦争拡大図



が、最初は何気なく見ていた人達が次第に引き込まれ、食い入るように視聴していました。

日本が行った加害を語る人たち、映像の上映は、時には目を背けたくなるものもありましたが、皆さんきっと印象深なものなつたと思います。途中から見ていた人もあつたのですが、

DVDの3部作上映では、最初は何気なく見ていた人達が次第に引き込まれ、食い入るように視聴していました。



3部作全体を再び見たいと
いう声もありました。

昨年の九月十八日に何があつたか憶えていますか。
戦争法（安全保障関連法案）が国会で強行採決された日です。あれからまもなく一年を迎えます。スレーダンに派遣されている自衛隊に「駆けつけ警護・緊急事態」ということで銃の使用が行われる可能性があります。九・一八を忘れず、廃案のための活動を続けるのが大切です。

中国でも
「九・一八を忘れない」は大切な事

柳条湖事件（日本軍によくつた恥ずべき事として語り継がれています。今回の中中国旅行で見学地になつた藩陽の9・18歴史博物館はこの事実を忘れないためつくられた施設です。安倍自公政権が「9月18日に戦争法を強行可決」したことは、日中友好、不再戦、平和外交につながるものではありません。



が中国侵略のきっかけをつくり上げ、「九・一八を忘れない」と語り継がれています。今回の中中国旅行で見学地になつた藩陽の9・18歴史博物館はこの事実を忘れないためつくられた施設です。

安倍自公政権が「9月18日に戦争法を強行可決」したことは、日中友好、不再戦、平和外交につながるものではありません。



九・一八を忘れない ことの大切さ

特に、今回のツアーには、参加者22名のうち、苫小牧支部から9名もの参加があり、事前に支部学習会を行って、見学地の内容を学んでの中国への旅でした。

8月26日から中国東北部好協会北海道連合会の一旅行が9月1日に無事に元気に行きました。

◆伊藤支部長の話

本で見ると、実際に現地へ行って見る違いに、言葉を失った。施設の展示方法が非常に良く出来ていた。以前は、これでもかと残酷場面ばかりの展示だったが、今は、なぜこのような事が起きたかを歴史的にその経過を展示し、二度と戦争を起こしてはならないという様に分かり易い展示了になっていた。

◆河野事務局長の話

苦小牧市民会議は、71回目のを迎えた敗戦の日の8月15日、反戦平和集会を市民会館で開きました。



市内の労働組合、市民団体や宗教者などが参加する「思想と信条の自由を守る苦小牧市民会議」は、71回のを迎えた敗戦の日の8月15日、反戦平和集会を市民会館で開きました。

安倍内閣は、過去最大となる5兆1685億円もの防衛費を新年度予算に計上しています。安全を軍事力で守る戦前回帰をめざすのか、それとも平和を拓く力をを持つ「第9条」の可能性を生かす道を歩むのか、一人一人に判断を未来からゆだねられていると、強く訴えられました。

安倍内閣は、過去最大となる5兆1685億円もの防衛費を新年度予算に計上しています。安全を軍事力で守る戦前回帰をめざすのか、それとも平和を拓く力をを持つ「第9条」の可能性を生かす道を歩むのか、一人一人に判断を未来からゆだねられていると、強く訴えられました。

中国旅行：たくさん学びをしてきました

8・15反戦平和集会 日本の安全について 考えました

落とされた原爆で家族すべてを失った日本の外交官「本田ひろし」が「憲法9条」を各国代表に読ませ、領有権を凍結した上で南極を「人類の共有財産」と規定する「南極条約」が生まれたエピソードを紹介されました。

また、南極の領有をめぐり、大国同士がもめていた国際会議の席上で、学徒出陣をしている間に、広島に

今 回 は

お先にどうぞ “ 您 先 请 ”

ニイン シン チン
“您 先 请”は、相手に「お先にどうぞ」と、ある行為を「お先にどうぞ」とうながす、すすめる時などに使います。

ニイ ニン シエン チン
你 您 先 请
お先にどうぞ (您は、丁寧語です)

ニイ ガンジン ダ
你 赶繁的、
早く先にやって！



中国語に親しんでいますか。
発音が難しいですね。がら
ばりましょう。

No. 2 1

脱原発・自然エネルギーをすすめる会 講演会の案内

講師 小野有五さん

講演会の案内

脱原発・自然エネルギーをすすめる会

講師 小野有五さん
(北星学園大学経済学部教授
(北海道大学名誉教授)
白東毛故地内の古所遺跡

演題　沿原発敷地内の活動層問題
　　原子力規制委員会の問題
9月10日(土)午後1時30分～
労働福祉センター大ホール

(末広町1丁目15番7号)

※講演会終了後、脱原発をすすめる会の総会が行われます。

中国語 会話サークル

編集後記

矢継ぎ早に襲ってきた台風でしたが、被害はありませんでしたか。そして、まだ暑いこの陽気です、体をご自愛して元気にお過ごし下さい。

中国旅行団もたくさんのお土産話を持つて帰国しました、どんな学びがあつたのか、聞くのが楽しみです。

今回も4ページで盛りだくさんの内容になりますました。

(薦保記)

紹介

苦小牧九条の会が映画を上映

☆ ☆

アイビー・プラザホール

入場料 千円（学生は無料）

この映画は、憲法論議が政治によつて進められるのではなく、主権者である私たち国民の間に広がることを願つてつくられたものです。

一般市民や識者へのインタビューを通して憲法について考えたドキュメンタリー映画です。

アイビー
市民会館
トーラス

日胆と
戦争

71回目となる「終戦の日」の15日に合わせ、平和の尊さを伝えようと動きだした戦争体験者がいる。苫小牧市泉町の池野京子さん(78)。終戦直後の旧満州(現中国東北地方)で日本人女性の集団自決の現場に居合わせたが、偶然生き延びた。今月10日、公の場で初めて体験を語り、「戦争が二度と起きないよう、残りの人生で自分ができることをしていきたい」と力を込めた。

(細川智子)

集団自決を体験 池野京子さん

「戦争は本当につらいこと。忘れようとしても8月になると思いません」
苫小牧市内で市民団体が開いた10日の集会。池野さんは約80人を前に、7歳で向き合った悲劇を静かに振り返った。

釧路生まれ。4歳の時、父が満鉄(南満州鉄道)で働くため奉天(現・瀋陽)に渡った。1945年(昭和20年)初め、同じ旧満州の敦化にいた伯母一家の元へ、5歳下の妹と疎開した。伯父が日満パルプ製造敦化工場に勤めていた。

悲劇はここで起きた。日中友好協会苫小牧支部による

と、8月9日に旧満州に侵攻した旧ソ連軍が同22日、敦化工場に進撃。社宅にいた男性金員を移動させ、女性と子どもを独身寮に監禁した。旧ソ連兵は数日わたり女性へ性的暴行を繰り返した。

幼い池野さんには起きていた。

その後、池野さんは伯母ら

が、46年8月に引き揚げ、先に釧路に戻っていた母と再会。父は終戦直前に奉天で病死していた。19歳で苫小牧に移り、結婚して3人の男の子が載せられていった。

3歳ほどなめた妹は「グッ

クックッ」と音を立て、亡くなつた。周りの人がバタバタと倒れていく中、池野さんは「自分で取り残されるのは嫌」と焦り、伯母に「早く私にもなめさせて」とせがんだ。ひとなめすると急に眠くなり、腰が痛くなつて気を失つた。直前に「天皇陛下、万歳」と両手を上げた記憶がある。しばらくして目が覚めた。致死量に達しなかつた伯母、いとこを含め、この部屋で生き残つたのは11人。別の部屋では女性たちが首筋や手首を切つて自決し、血の海が広がっていた。

それが理解できなかつた。監禁された同じ部屋に38人。やがて、ある女性が「このまま生きているのは恥だ」と言ひ、白い粉の入つた小瓶を取り出した。青酸カリだつた。大人一人一人の手のひらに粉が載せられていった。

幼少期のつらい体験は心の奥底にずっと押し込めてきた。還暦を過ぎてから周囲には少しずつ伝えてきたが、今回初めて公の場で語つたのは初めて公の場で語つたのは理由がある。昨年の安全保障関連法の審議を巡り、声を上げる若者の姿に背中を押されたからだ。

集会の結びに「幼かった私が感じたつらさは恐らく、大

人の半分ほど。だから今ようやく人前で話せるようになつたのかな」とほほ笑んだ池野さん。

「戦争は絶対にダメ。もう

うて、平和を愛する

人と生存を保持

ない」と思いを新たにしてい

池野さんの証言が新聞に掲載

8月10日の「平和のつどい」で戦争体験証言をした池野京子さんのお話が北海道新聞の「日胆と戦争シリーズ」に掲載されました。転載して紹介致します。

「自分ができること」71年の告白



7歳で体験した戦争の悲劇について語る池野京子さん

10日、苫小牧市内